

「みんなが主役」の笑輝祭・体育の部

リストバンドに込められた想い

笑輝

第8号
加賀中学校
校長室

先週末、青空のもと笑輝祭・体育の部が開催されました。今年の笑輝祭・体育の部が私たちに教えてくれたのは、勝ち負けよりも、もっと価値のある「心の繋がり」でした。全校生徒が一つになり、文字通り「みんなが主役」となった感動の笑輝祭・体育の部を振り返ります。

本格的な笑輝祭・体育の部への取り組みが始まったのは、本番2週間前のことでした。リレー練習、ショート綱引き練習・ブルック対抗リレー練習・学年種目練習・ダンス練習・玉入れ練習、テント設営等に、生徒たちは真剣に取り組みました。

また、並行して、生徒会を中心にスローガン決めや、今年度初めてリストバンドを揃えることなどについても検討してきました。なぜ、リストバンドなのか？

生徒会担当の先生から、教職員に示された導入の理由は、次のようなものでした。一部を紹介します。

「以前から、笑輝祭での一体感を出すために何か新しい取り組みはないか模索していて、Tシャツなどのアイテムを揃えたいという意見が生徒たちから出ていました。生徒たちの思いは純粹で、目立ちたいからではなく、自分たちの学校を、さらに盛り上げたいというものでした。この生徒の願いを叶えてあげたいと思い、費用や手軽さなどについて、生徒と検討し、タオル地のリストバンドが候補に挙がりました。リストバンドは、「加賀中の生徒である証」とあると同時に、「各学年・学級のチームと

しての証」にもなると思います。スポーツの世界でも、プロチームやオリンピックの代表選手が同じ色の帽子やユニフォームを身に付けています。それは、離れていても、競技が違っていても、「私たちは一つのチームだ」という強い絆を確認し合うためです。生徒たちにも、その経験をさせてあげたいと思います。そこで、初めての試みとして、リストバンドを配布し、着用することを提案します。」

どうでしょうか。もっと自分の学校の一体感を出したいという生徒の願い、その願いに真摯に向き合った生徒会担当者の想い。リストバンドというアイテムには、様々な素敵な思いが込められていたのです。このリストバンド事業のように、今年の体育会を最も象徴していたのは、本番に至るまでの「プロセス」でした。練習や会場準備の段階から、先生方が指示したことは、必要最小限のものでした。活動の中心にいたのは、生徒たち自身です。どうすれば全員が楽しく、安全に競技に打ち込めるか。係会の打ち合わせや、グラウンドでのライン引き、用具の配置にいたるまで、生徒たちが自ら考え、動き、主体となって泥だらけ、汗まみれになりながら創りあげていきました。

そして、その大きな原動力となったのが3年生の抜群のリーダーシップです。最高学年としての責任感を胸に、3年生は常に一歩前を歩んでくれました。後輩たちに優しく声をかけ、手本を示し、ブルック全体の士気を高める。その頼もしい背中には、後輩たちの目にとっても大きく、輝かしく映ったはずだ。

迎えた本番。グラウンドには、勝利を競い合う熱気だけでなく、お互いを称え合う温かい拍手が溢れていました。足が止まり

そうになった仲間へ送られる全校生徒からの大声援、ゴールした瞬間にブルック関係なく交わされる笑顔。そこには、一人ひとりが自分の役割を果たし、互いを認め合っている「主役」たちの姿がありました。

当たり前のことですが、「競技に勝つことや賞をとること」は、「目標」です。そして「学級みんなの思いを背負い、最後まで諦めず競技する」や、「練習や本番を通してお互いの良さや頑張りにつづく」などの「目的」。こそ、学校行事(健康安全・体育的行事)の本質です。

自ら考え、仲間とともに、全員で創り上げた笑輝祭・体育の部は、この本質に迫ることができたと思います。

保護者の皆様には、お子様の体調管理や日々の洗濯など大変お世話になりました。PTA役員の皆様にも、当日の駐車場誘導、ありがとうございます。心から感謝申し上げます。



横断幕の制作風景